

## 0. 学校教育目標

「ともに学ぶ」～わかる、つながるの実践をとおして～

「違い」を認め合い、互いを支えあうことにより、一人一人が自分らしさを発揮できる学校

## 1. 研究主題

「コミュニケーション能力を高め、より良い人間関係、集団づくりを促す。～気づき・対話するために聴く力を高める～」

## 2. 主題設定の理由

学習指導要領の改訂に伴い、現代社会における多岐にわたる資質の向上に向けた教育活動が求められている。とりわけ、キーワードとなるのが「主体的・対話的で深い学び」とされており、これらの視点で授業改善を進めていく必要がある。中でも言語活動、観察・実験、問題解決的な学習等の質を向上させていくことが求められるとともに、1回の授業および単元などのまとまりの中で、学習を見直し振り返る場面や対話する場面をどのように設定するかが授業改善のポイントとなっている。

本校は、明るく素直で行事や部活動に熱心に取り組む生徒が多く、学習活動でも与えられた課題に一生懸命取り組む生徒が多い。一方で、他者とのコミュニケーションを苦手とする生徒も少なくなく、クラス集団の中での人間関係づくりについては課題がある。例えば、グループでの話し合い活動の際に、一人の生徒が一方向的に話しているグループがあったり、沈黙が続くグループがあったりする。

そこで、対話的な学びを実現させていくために、まずは、生徒どうしがお互いの話を「聴き合う」体験を積み重ねていきたい。例えば、ペア・グループ活動は「今のどう思う？」や「ここどうするの？」などの質問から始めて、話を聴くときは相手の方を向くという約束を作るなどして、相手の話を聴くきっかけを与える。生徒自身が他者に自分の話を聴いてもらえると、他者に対する安心感や信頼感につながる。こうした「聴いてもらえてよかった、うれしかった」という安心感や信頼感を醸成していくことが、生徒のコミュニケーション能力向上の土台になっていくと考える。

## 3. 研究主題に対する具体的な手立て（別紙1）

○授業において1回の授業内で2回以上ペア活動を行う。

○授業におけるペアやグループ活動での働きかけを「質問する・聴く（聞く）」とする。

○聴き合う際に「比べる」「関連付ける」「整理する」「要約する」などの対話の視点を与える。

○タブレットを効果的に活用するために教員相互に授業を見学し合う。

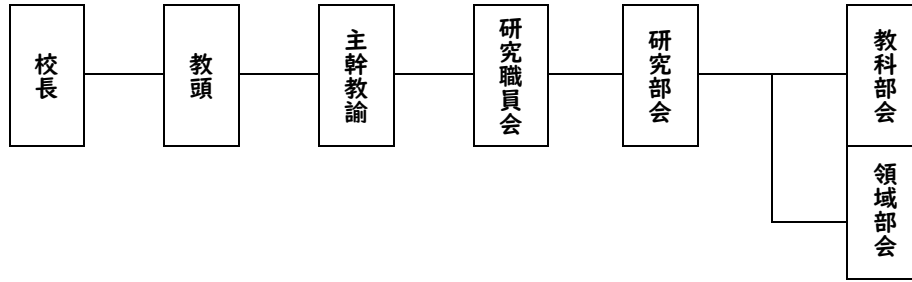
## 4. 研究仮説

生徒同士の関わり合い（聴き合い）を促し、学習内容、課題の指示および友人とのより良い関わり方がわかるようになることで、人間関係や集団内での安心感につながるとともに学習への意欲や学力の向上が期待できる。

## 5. 研究の今後の見通し

- (1) 職員会で共通理解・教科部会で実践内容を確認
- (2) 学活で説明・事前アンケート（4月中）
- (3) 授業見学等で実践内容を共有
- (4) 事後アンケート（12月中）
- (5) 成果と課題の共有と検討

## 6. 研究組織



## 7. 研究を支える取り組み

- ① 黙想・立腰：落ち着いた授業開始を促す。
- ② 道徳の協同実践：各学年部で分担して実施（ペア活動の実践を全員が共有できる機会）。
- ③ 席配置の工夫：2列ごとに隣との間隔を近づけて、学び合いを促す。
- ④ リーダー生徒の育成：リーダー研修の実施。学年部・生徒会と共同してリーダーを育てる。
- ⑤ 朝礼時の話：学級朝礼に入った教員が1,2分程度話をする（生徒の聴く態度を育てるため）。
- ⑥ 授業見学：授業公開日（週間）を設定し授業を見学する（指定研修を含む）。年間4回。
- ⑦ 希望制研修実施：研究部を中心に職員研修を実施（資質向上やリフレッシュを目的とした内容）。

※雑な相談（雑相）を推進します。まずは対話的な職員集団から作っていきましょう。

※昨年までの自主研修の実績：カヌー教室／新NISA講座／効果的なiPad使用講座

## 8 年間計画予定表（予定を入れるため、指定研修のみなさんは訪問指導の日を教えてください）

学期	月	研修内容	備考
1	4	研究の方向性を共有	全国学力状況調査（3年）
	5	研究計画提出	市教委訪問指導（1回目）
		令和7年度県国研に向けて計画策定	市学力定着度調査
	6		アセス①
2	7		
	8	研修職員会（全国学力調査結果分析） （アセス検証）（いじめ対応）（特別支援教育）	
	9		市教委訪問指導（2回目）
	10		アセス② 人権・同和教育研修
	11		
3	12	研修職員会（アセス変容検証）	県学力調査 学校評価
	1		
	2	県学力調査の分析、事後アンケート実施と分析	
		研究の振り返り	
	成果と課題の共有		
	次年度における研究の方向性を検討		

## 9 研究成果の検証方法

- ・アンケート
- ・授業互研後の情報共有

## 10 その他

- ・指定研修の場合、指導案提出前に各教科で検討し、稟議を回す。（教科主任→研究主任→管理職）  
また、公開授業後の研究協議に参加することに努める。
- ・令和7年度県国語教育研究大会の授業公開に向けた取り組み